

第44回 SCCJ セミナー

「実践メイクアップ化粧品 ～機能性と製剤化技術～」

開催日：2014年9月26日(金)10:00~17:45

会場：きゅりあん（品川区総合区民会館）大井町駅徒歩3分

参加費：SCCJ会員（代理参加）13,000円／一般19,000円

< スケジュール >

<総合司会 植田 光一(東洋ビューティ株)>

時間	題目・講師
10:00-10:05	開会の挨拶 セミナー委員長 鈴木 裕二 <座長 瀧野 嘉延 (味の素株)>
10:05-10:55	日本の化粧～ハニワメイクから小麦色、そして美白ツヤメイクへ (株)ポーラ・オルビスホールディングス ポーラ文化研究所・学芸員 津田 紀代 氏
10:55-11:35	乳化ファンデーションにおける仕上がりと、化粧持続性と使用感の制御 花王株 メイクアップ研究所 永井 裕子 氏
11:35-12:40	昼食休憩 <座長 寺内 友広 (株)ナリス化粧品)>
12:40-13:20	機能性素材を配合した、化粧持ちに優れたパウダーファンデーションの開発 ポーラ化成工業株 開発研究部 浅海 千明 氏
13:20-14:00	口紅の嗜好性の時代変遷と、それに伴う製剤技術の進歩 (株)資生堂リサーチセンター 池田 智子 氏
14:00-14:40	アイメイク化粧品の機能性と製剤化技術 (株)コーセー 研究所 メイク製品研究室 宇田川 史仁 氏
14:40-14:50	休憩 <座長 工藤 大樹 (ポーラ化成工業株)>
14:50-15:30	ネイルエナメルを構成している成分と処方化技術 ベルジュラックジャポン株 技術 G 大森 徹 氏
15:30-16:20	特殊メイクのおもしろさ (株)メイクアップディメンションズ 江川 悦子 先生 <総合司会 植田 光一(東洋ビューティ株)>
16:30-17:40	フリーデッスカッション
17:40-17:45	閉会の挨拶セミナー副委員長 栗山 健一

【お申込み・お問合せ先】

日本化粧品技術者会 事務局（本部）

TEL：045（590）6025 / FAX：045（590）6093

ホームページ：https://www.sccj-ifsc.com/



演題① 日本の化粧～ハニワメークから小麦色、そして美白ツヤメークへ

(株)ポーラ・オルビスホールディングス ポーラ文化研究所・学芸員 津田紀代氏

化粧は、常に社会と密接なつながりを持って世界各地で行われ続け、人にとって最も大切な文化のひとつである。今回は、日本の化粧文化について、色彩、海外との交流の要素を入れて 4 つに時代区分し、各時期のベースメークとポイントメークの具体とその役割についてご紹介する。現代社会から消えたメーク、現代社会で進化し続けるメークなど、皆様とご一緒にその理由などを考えたい。

演題② 乳化ファンデーションにおける仕上がり、化粧持続性と使用感の制御

花王(株) メイクアップ研究所 永井裕子氏

ベースメークアップ市場において、乳化ファンデーションはパウダーファンデーションと並び、各社の主力商品である。近年では、乳化ファンデーションの機能をも併せ持つ BB クリームや CC クリームの台頭など、個々の消費者の嗜好に応じた幅広いアイテムが発売されている。乳化ファンデーションに求められる性能としては、美しい仕上がりとその持続、そして良好な使用感が挙げられるが、製剤化と各性能の向上の両立は非常に難しい。本講演では、乳化ファンデーションの基礎的な技術を解説するとともに、仕上がり、化粧持続性、使用感の制御を実現する製剤の開発について具体的な事例を挙げて紹介する。

演題③ 機能性素材を配合した、化粧持ちに優れたパウダーファンデーションの開発

ポーラ化成工業(株) 開発研究部 浅海千明氏

ファンデーションは、パウダー剤型、乳化剤型、油性剤型に大別される。その中でパウダーファンデーションは、手軽さや扱いやすさ、携帯性が好まれ、ファンデーション市場の中で大きなシェアを獲得している。一般的に構成成分の 80%以上を粉体が占めるパウダーファンデーションは、他の剤型と比較して配合される粉体そのものの機能や特性がダイレクトに反映されやすい。そのため、美しい仕上がりや、その効果を持続させる粉体など、さまざまな粉体の開発が進められてきた。本講演では、ファンデーションに求められる重要な機能の一つである、化粧持続性の向上を目的として開発された粉体素材と技術を紹介する。

演題④ 口紅の嗜好性の時代変遷と、それに伴う製剤技術の進歩

(株)資生堂リサーチセンター 池田智子氏

お客様が口紅を購入する際、色、仕上りの質、使用性など自分の好みに合わせて選択する。その口紅の嗜好性は時代とともに変化し、それに伴い技術の対応もなされてきた。近年では「つや」は欠かせない質感であり、この要望に応えるべくワックスや油分の開発に取り組んできたが、つやをアップすることで色持ちの機能は低下する傾向にあった。本講演では口紅の流行の変遷とそれに伴う技術の進歩、さらには今まで困難とされていた「つや」と「色持ち」の両立という課題を解決した技術の紹介を行う。

演題⑤ アイメーク化粧品の機能性と製剤化技術

(株)コーセー 研究所 メイク製品研究室 宇田川 史仁氏

アイメーク化粧品は、まつ毛や眉毛、目の際、瞼といった目の周辺部位に陰影や彩りを与えることで魅力的な目元を演出し、顔全体の印象までも変える効果があるアイテムである。本講演では、マスカラ、アイライナー、アイカラー、アイブロウの剤型による特徴や機能・効果を述べ、その中でマスカラやアイライナーについて、“お湯で落とせるフィルムタイプ”の開発事例などの具体例を交えつつ製剤化技術を紹介する。

演題⑥ ネイルエナメルを構成している成分と処方化技術

ベルジュラックジャポン(株) 技術 G 大森徹氏

ネイルエナメルのラッカー技術は、自動車塗装技術から来ている。最初のネイルエナメルが販売されたのは 1920 年頃のアメリカとされている。ある企業家が塗布ブラシ付きの小さなボトルに液体を入れて製品化し、ネイルポリッシュとして販売したのが始まりだ。その後、現在のネイルエナメルの形となったのは 1960 年代に入ってからである。それまでの透明系ラッカーにゲル化剤が配合されるようになり、顔料を均一分散することが可能となった。最近のネイルエナメルでは、ラメ剤や光輝剤によるフィルム質感の研究、経時の持ち(剥がれ)や速乾性、ツヤなどが考慮された新しい樹脂を用いた製品の開発が主に行われている。

また、安定化剤や紫外線吸収剤による製品安定化技術の研究も進められている。本セミナーでは、我々が手にする機会の多い溶剤系ネイルエナメルを構成している主要成分について述べるとともに、最近の処方化技術、トレンドを紹介したい。

演題⑦ 特殊メイクのおもしろさ

(株)メイクアップディメンションズ 江川悦子先生

映像の世界をメインに様々なニーズに答えて、特殊メイク、特殊造型という手段で仕事をしています。特殊メイクの中でも多いのが、「老けメイク」というジャンルで、役者さんを演じる年齢に合わせて老けさせます。その作業とはどういうものか、どういう点にポイントを置くと老けるか。それはどのような表現方法かなどを踏まえてご紹介したいと思います。